

# 越前市水道ビジョン概要版

～日野のめぐみ、安心な水、未来まで～



平成28年4月

越 前 市

## 1. 改定の趣旨と位置づけ

### 越前市水道ビジョンは、市水道事業の将来の方向性を示すものです

今回、平成22年度から平成26年度までの5年間の取り組みを評価するとともに、市民に信頼され続ける水道事業を目指して「安全」、「強靱」、「持続」の3つの目指すべき方向性と「挑戦」、「連携」の2つの方策の推進要素を掲げ、新たな施策としてとりまとめました。

計画期間は、平成28年度から平成37年度までの10年間とします。

事業の推進に際しては、越前市総合計画の快適で住みよいまちづくりの基本政策をはじめ、厚生労働省の新水道ビジョンなどの関連する計画と整合を図ります。そして、水道事業の方向性を定めた後に、個別の問題を解決するための基本計画や、より詳細な事業計画・実施計画を策定し、事業を推進します。

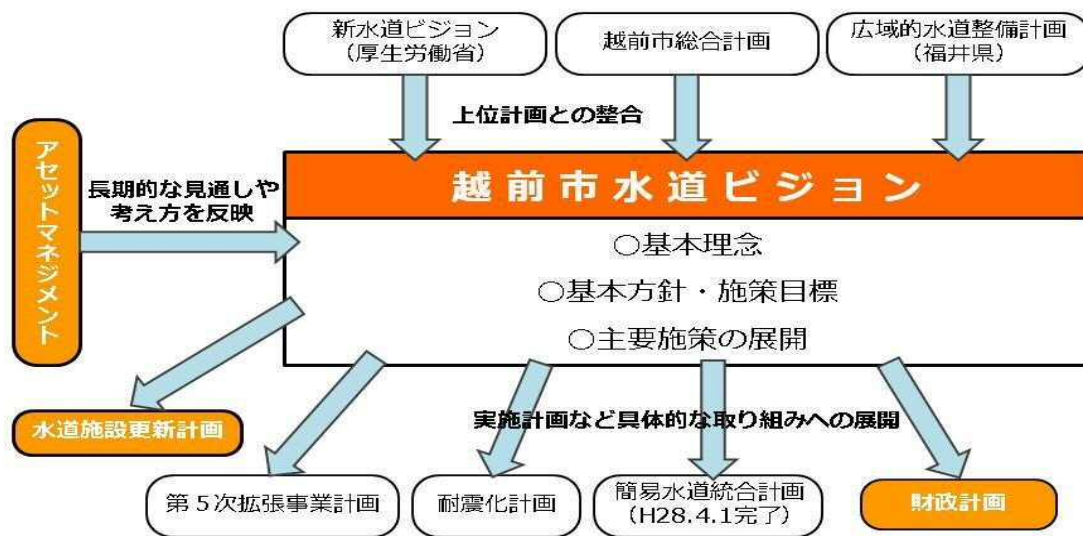


図 越前市水道ビジョンの位置づけ

## 2. 給水人口及び給水量の見通し

先日公表された越前市人口ビジョンでは、人口の減少傾向は継続することが示されており、平成26年度の給水人口80,940人は、平成37年度において78,200人となる見通しです。

また、給水量を見直した結果、上記のとおり給水人口の減少に加えて、節水機器の普及や市民の節水意識の向上などによる一人あたりの使用水量の減少などの要因により、平成26年度の日平均給水量：25,900m<sup>3</sup>/日は、平成37年度において23,500m<sup>3</sup>/日となる見通しです。

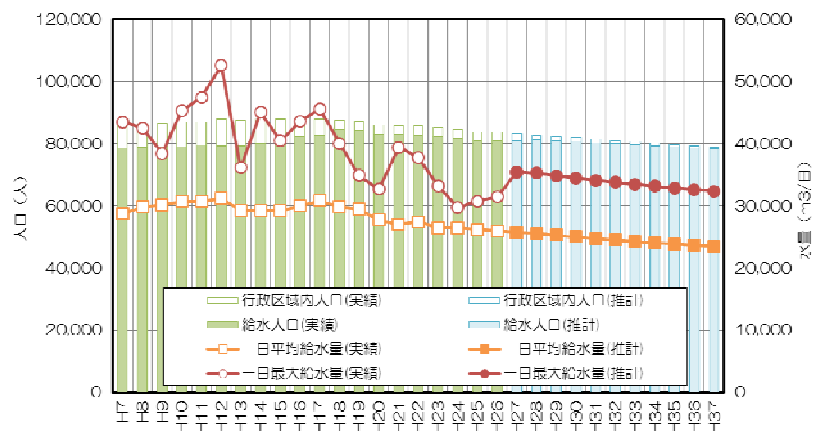


図 給水人口と給水量の見通し

### 3. 現状と課題

#### これまでの取り組みのフォローアップ

平成21年度に作成した越前市水道ビジョンの各施策について、「簡易水道の統合」は平成27年度中に完了し、「配水池の耐震化や電力消費量の削減」は概ね目標達成し、「管路の耐震化」は目標値に向かって順調に向上するなど、各目標に向かって順調に進捗しています。

今後も、基本理念を達成するために、以下の項目を重点的に取り組む必要があります。

- ・水安全計画の策定【安全】
- ・老朽施設・老朽管路に関する対策【強靱】
- ・施設や管路の再構築計画の策定と実践【強靱】
- ・情報公開、広報、広聴（利用者ニーズの把握）の充実【持続】

#### アセットマネジメントの検討結果

- ・水道施設と管路（約740km）を全て更新する費用は、概算で約600億円必要になります。
- ・現行料金を維持し、実用耐用年数で施設や管路を更新した場合、およそ20年後には資金がマイナスとなる結果が出ました。
- ・将来にわたり健全な経営を維持するためには、適切な時期に財源確保の検討が必要となります。



#### ①「安全」に関する現状と課題

##### ・現状の水質（安定・良好）

現状の水道水は、高度な浄水工程を経て送水されている県水と、安定した水質を確保している地下水を供給しており、水質基準を満たした安全な水質であるため、今後も良質な水質の維持に努めなければなりません。

##### ・水質汚染リスクの認識

流域内での水質汚染の発生の可能性はゼロではないため、その危険性を認識し水質管理体制を強化しなければなりません。

#### ②「強靱」に関する現状と課題

##### ・水道施設の更新

アセットマネジメントの結果から、今後、多くの施設・管路が耐用年数を迎えることが明らかになったため、計画的な更新計画を策定する必要があります。また、更新に合わせてダウンサイジング（施設能力の最適化）なども検討する必要があります。

##### ・水道施設・管路の耐震化などのリスクへの対応

地震など大規模災害時におけるライフライン確保の重要性から、施設・管路の耐震化などのリスク対策を図る必要があります。

#### ③「持続」に関する現状と課題

##### ・給水収益の減少と諸費用の増加

現在の経営状況は比較的安定していると言えますが、今後給水収益の増加が見込めない中で、受水費用や施設・管路の更新に必要な費用が増大するため、その財源確保が課題となります。

##### ・水道事業への理解と情報交換の機会の充実

市民に事業内容を理解していただけるように情報を提供することが必要です。また、市民と情報交換を行う機会を充実させることで、利用者ニーズの把握に努める必要があります。



## 4. 施策の展開

今回の改定においても、基本理念を踏襲し、今後の事業運営に取り組みます。

また、基本理念の実現をめざして、方針・目標を設定し、それらを達成するための主要施策を次のとおり展開します。

### 「安全」

#### いつでもどこでも水をおいしく飲める水道

- **水質管理体制の強化**  
 今後は、包括的な水管理体制の構築を目指して、水安全計画を策定し、水質管理体制の強化に努めます。

### 「強靱」

#### 災害から迅速に復旧できるしなやかな水道

- **効率的・効果的な老朽化対策**  
 施設・管路の老朽度の事前調査、補修による延命化や施設更新などの手法を検討するとともに、さらに財政面で効率化を進め、耐震化などのリスク対策事業との調整を図り、計画的に老朽化対策に取り組みます。
- **施設の再構築**  
 レベルアップや水需要の減少を考慮したダウンサイジングなど、新たな視点での取り組みも必要となっており、今後も新たな可能性を追求しながら整備事業を継続し、安定的に水道水を供給できる体制の維持に努めます。

### 「持続」

#### 健全かつ安定的な事業運営が可能な水道

- **健全経営の維持**  
 アセットマネジメントの結果により、今後、水道施設の更新が本格化し、水道施設の更新のための財源確保が必要になる事が明らかになったため、将来にわたって財源確保に取り組みます。当面は現状の水道料金を維持しながら、中長期的視点に立って、更なる計画的、効率的な財政運営に努め、健全経営の維持に取り組みます。
- **水道事業の広報・情報公開**  
 利用者のニーズを収集し事業に反映させていく方法（双方向のコミュニケーションを図るために、アンケートの実施、出前講座の充実、水道週間に合わせたアピール、施設見学など）について継続的に進めます。

## 5. 事業の推進

本ビジョンに示した施策は、個別の事業計画を策定し、相互の関連に留意しつつ、着実に実施します。各施策の着手時期と事業期間を、短期(概ね4年以内)と中長期(概ね10年以内)、または継続的に取り組む施策として区分します。下図に各施策の事業期間を整理します。

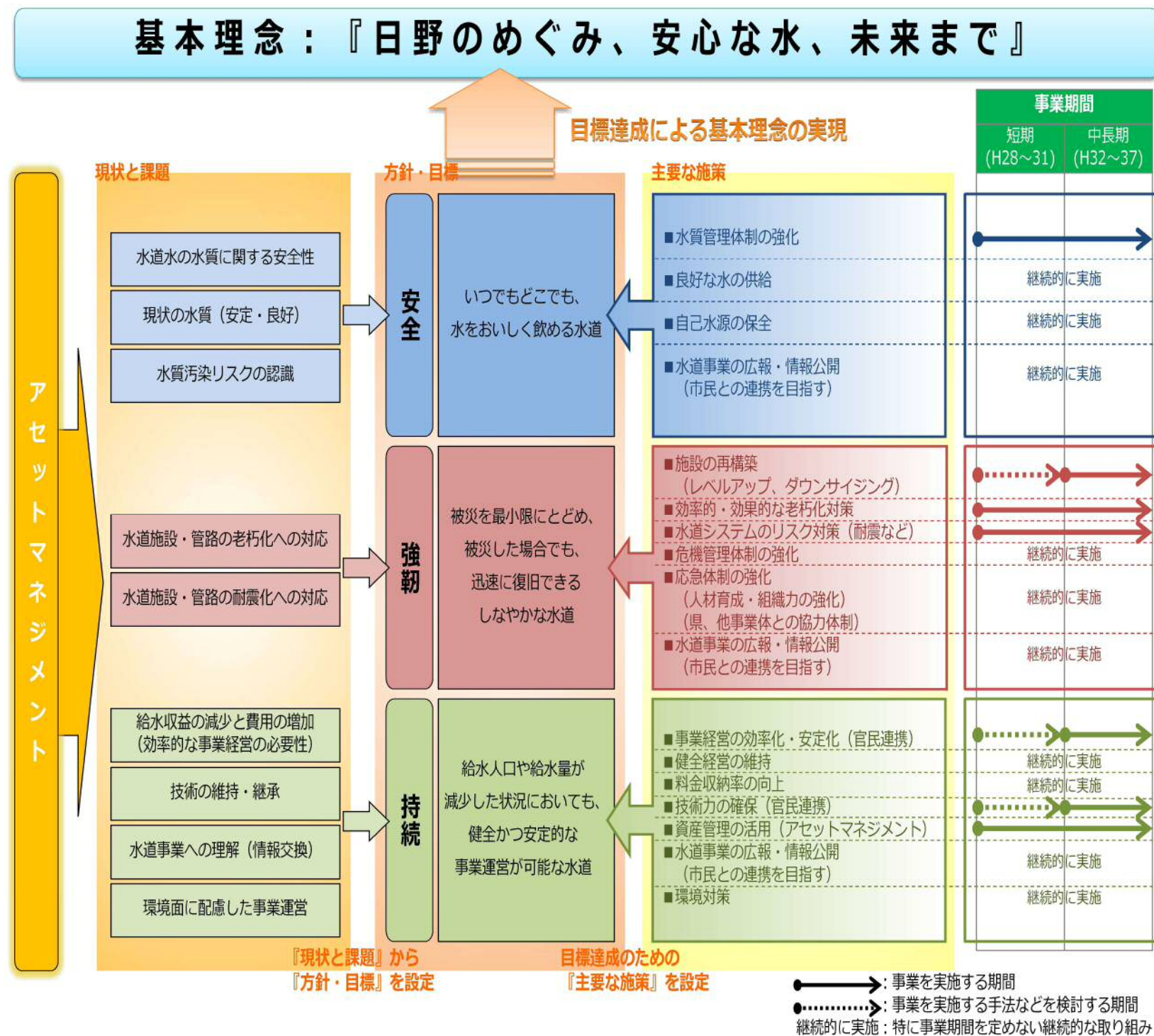


図 基本方針・政策目標と主要な施策の展開とその実施期間